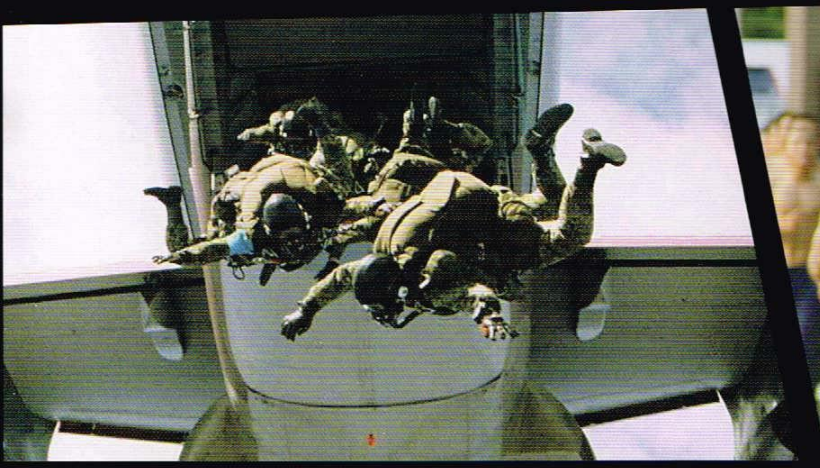




精銳無比
Second to none

第1空挺団

1st Airborne Brigade, JGSDF





習志野駐屯地および演習場上空からの自由降下

精銳無比

空挺のあゆみ

日本の空挺の歴史は、昭和15年、陸軍挺進練習部の創設に始まりました。この練習部において、航空機からの落下傘降下あるいは強行着陸によって奇襲作戦などを行う精鋭の空中挺進部隊(空挺部隊)を創設するための、要員の育成、調査・研究などが行われました。その後、挺進部隊が編成・拡充され、大戦末期には1万5,000人規模の挺進集団となりました。この間、スマトラ島南部でのパレンバン空挺作戦や沖縄での義烈空挺隊による空挺作戦などに運用されました。

終戦後の昭和29年、福岡県の香椎(かしい)において、米陸軍空挺部隊の教育を受けた要員をもって臨時空挺練習隊が創られ、自衛隊の空挺部隊創設の基礎となりました。翌年、千葉県習志野駐屯地に移駐し、空挺教育隊の編成を経て、昭和33年、挺身赴難の伝統を受け継ぎ、精鋭無比を目標とした第1空挺団が編成され、現在に至っております。



空挺創設の地(キャンプ香椎)の正門



米陸軍による教育

第1空挺団とは

日本唯一の落下傘部隊

陸上自衛隊の精鋭部隊として、侵略・天災地変などの国家の危機に際し最も困難かつ重要な場面に、全国を股にかけて空中機動し落下傘によって空から舞い降り

身を挺してあらゆる任務を果たすことが求められている部隊

空挺団の任務

侵略への対処

陸上自衛隊は、国土防衛の最終的な力として存在し、いざというときは侵攻する敵を実力をもって排除します。唯一の落下傘部隊である空挺団は、高い即応力と機動力をもって、日本全国でのあらゆる事態に素早く対応します。この際、侵略を受けているか又はその脅威のある地域に、落下傘降下などにより速やかに推進して侵略を阻止・排除します。

島嶼部に対する攻撃への対応



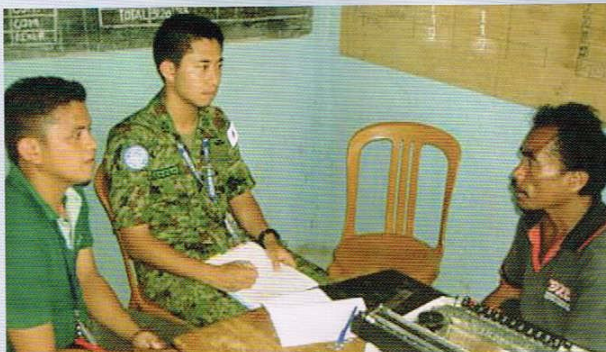
ゲリラなどに対する攻撃への対応



国際平和協力活動等

空挺団は、国際社会の平和と安全に貢献するため、国際平和協力業務や国際緊急援助活動などの国外での活動のため、隊員・部隊を派遣しています。

PKO(国連平和維持活動)



国連東ティモール統合ミッション(UNMIT)への派遣

イラク復興支援活動任務



第9・10次イラク復興支援群警備中隊に約350名を派遣



災害派遣活動

国民の生命及び財産を守るため、平素から関係自治体などと連携し、千葉県内の各種災害から日本各地における大規模震災などに速やかに対応します。空挺団はこれまで、日航機墜落事故、阪神淡路大震災、新潟中越沖地震及び東日本大震災における災害派遣で活動しました。

日航機墜落事故(昭和60年8月)



ヘリコプターによる人命救助

阪神淡路大震災(平成7年1月)



雪の中での給水活動

新潟中越沖地震(平成19年7月)



人力での救助活動

東日本大震災(平成23年3月)



福島県における懸命の行方不明者捜索

派遣海賊対処行動航空隊警衛隊



ソマリア沖・アデン湾での航空機等の警備に年間約100名を派遣

在外邦人等輸送



各部隊と交代して待機態勢を維持

空挺団の編成・装備

編成

空挺団は、3コ普通科大隊を基幹に、火力戦闘を行う特科大隊、降下の誘導や偵察活動を行う団本部中隊、施設作業を行う施設中隊、通信業務を行う通信中隊、兵站支援を行う後方支援隊、空挺に関する教育・研究などを行う空挺教育隊から成ります。

第1空挺団

団本部・本部中隊

普通科大隊

特科大隊

施設中隊

通信中隊

後方支援隊

空挺教育隊

団本部中隊 降下の誘導や偵察を行います。



普通科大隊 近接戦闘を行います。



特科大隊 火炮により火力戦闘を行います。



施設中隊 地雷の設置などの戦闘支援を行います。



通信中隊 指揮連絡の確保などを行います。



後方支援隊 補給、整備、衛生業務などを行います。



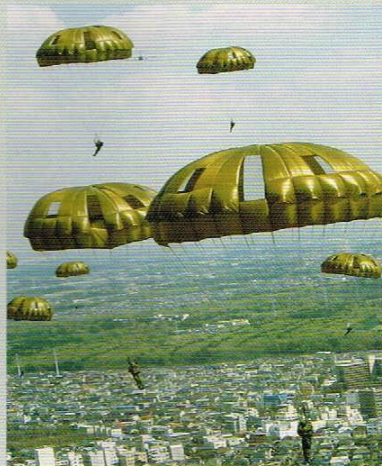


主要装備

空挺団は様々な武器・装備等を保有しており、各装備に精通し、その能力を駆使してあらゆる任務を果たします。隊員が降下する際に使用する落下傘は、空挺団特有の装備で、空挺傘と自由降下傘があります。

落下傘

空挺傘



空挺傘は、空挺団主力の隊員が降下する際に使用します。降下訓練では、高度340m、速度210km/hからの降下を実施します。例えるなら、新幹線に乗って東京タワーの高さからとび降りるイメージです。

自由降下傘



自由降下傘は、偵察部隊などの隊員が高高度から隠密・ピンポイントに降下する際に使用します。降下訓練では、最大6,000mの高度から降下します。

火器・車両

89式5.56mm小銃



5.56mm機関銃MINIMI



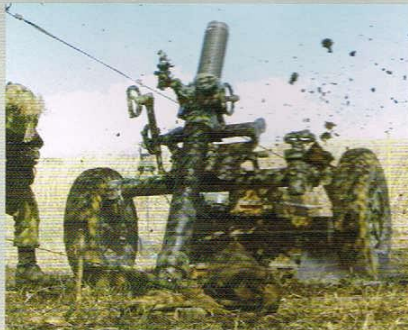
対人狙撃銃



81mm迫撃砲L16



120mm迫撃砲RT



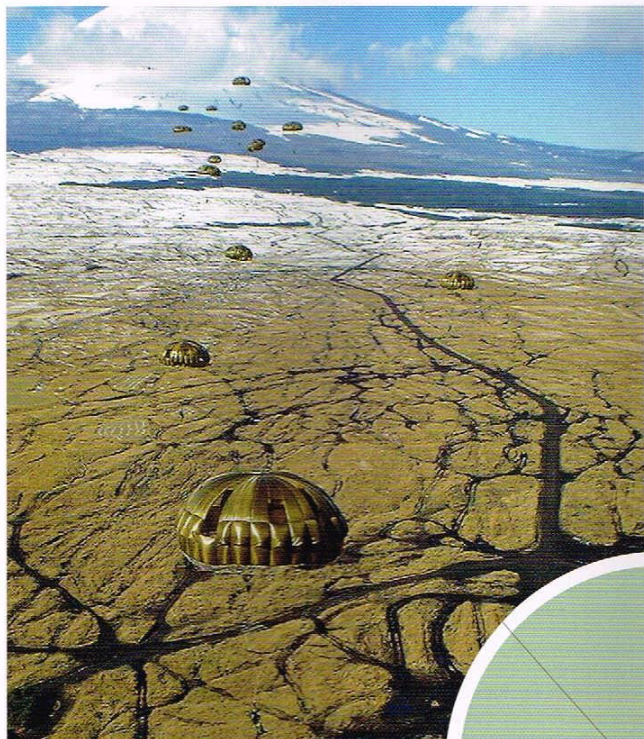
軽装甲機動車



更なる精鋭を目指した訓練

全国各地での訓練

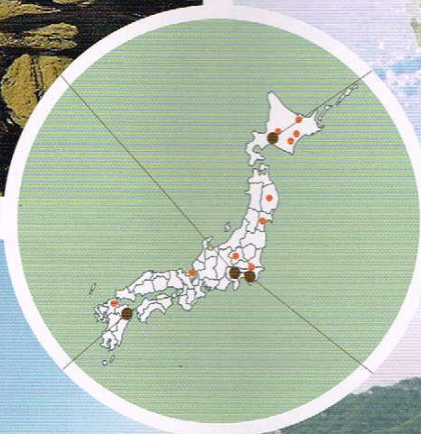
空挺団は日本全国で任務を遂行するという特性から、全国各地の演習場などにおいて降下訓練などを行っています。



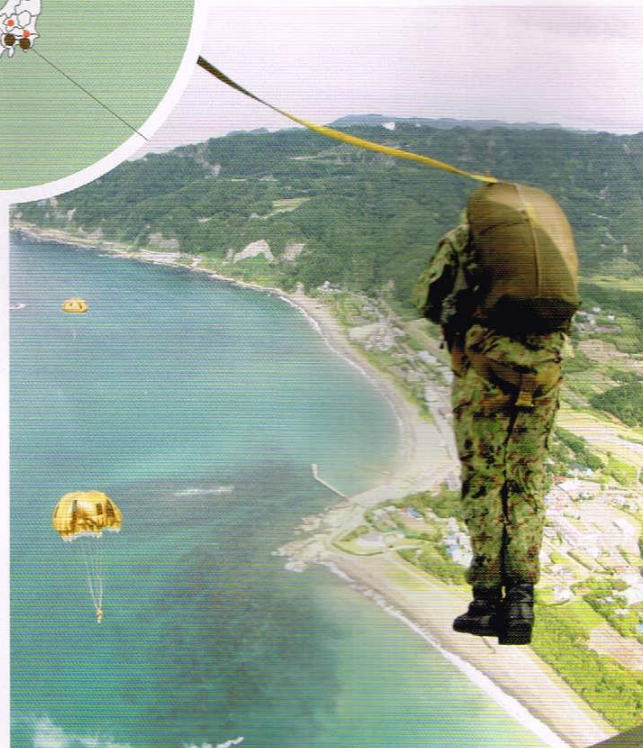
静岡県御殿場市東富士演習場での降下訓練



北海道千歳市大演習場での積雪地降下訓練



大分県日出生台演習場での降下訓練



千葉県房総半島保田海岸での水上降下訓練



空挺団の各種訓練

降下訓練以外に、各種ヘリコプターを使った訓練や車両・火砲等の主要装備品、弾薬・燃料等の補給品を投下する重物料投下訓練を行っています。

ヘリコプターを使用した訓練

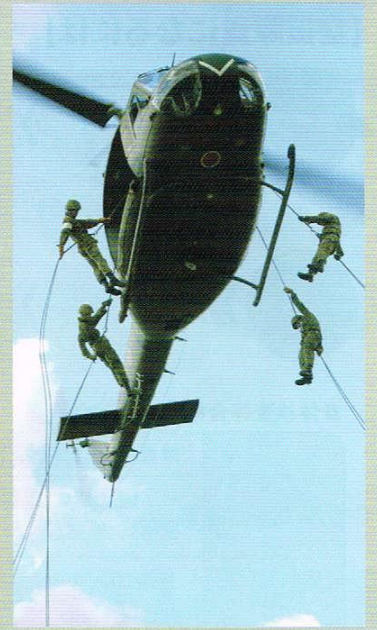
ヘリコプター部隊と協同した訓練を行っています。



エキストラクションロープによる離脱



ファストロープによる潜入



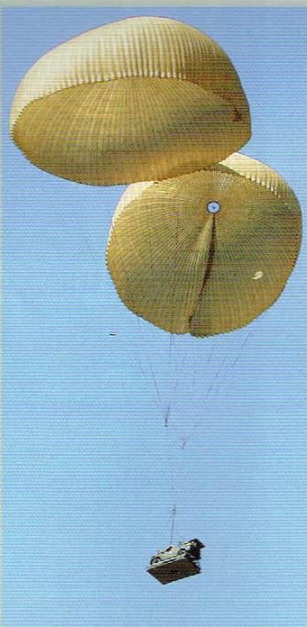
リベリングによる卸下

重物料投下訓練

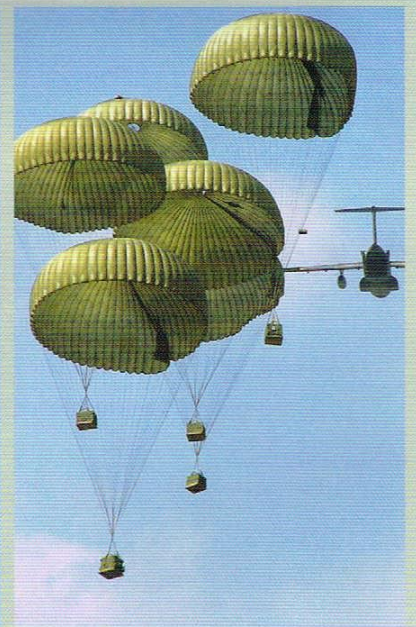
車両、火砲、燃料などを空中から投下する訓練を行っています。



投下物料の梱包



車両等の投下



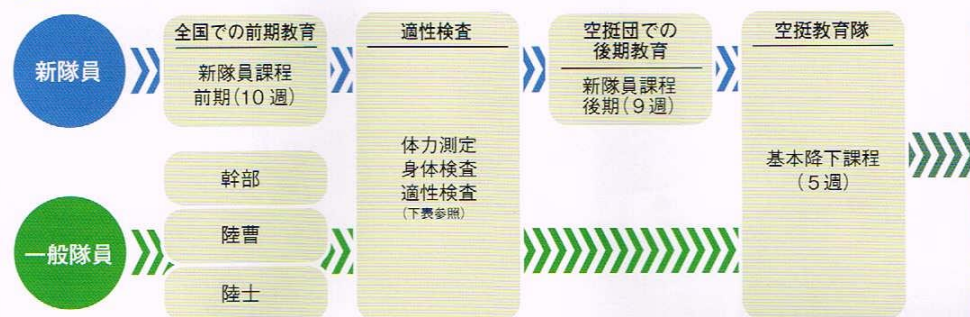
補給品等の投下

精強な隊員の育成

空挺隊員への道

空挺団で勤務するためには、基本降下課程を修了し空挺隊員になることが原則で、全国の部隊から志願者を募り空挺教育隊での教育を受けることとなります。全国での新隊員前期教育を受けた後、空挺団で新隊員後期教育を修了して基本降下課程学生になるか、一般部隊での勤務の後、空挺教育隊に入校して、基本降下課程学生になるという2つの道があります。

【空挺隊員になるには】



身体検査等合格基準

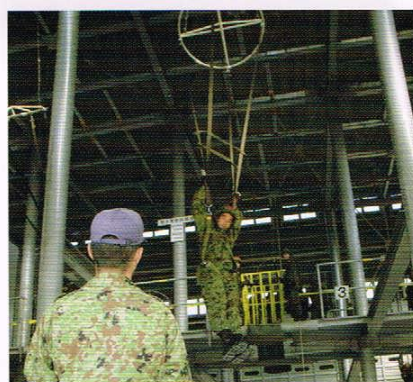
年 令	陸曹：36才未満、陸士：28才未満
体力検定	一般：5級以上、第1法：各種目最低45点以上、第2法：合計160点以上 空挺式：懸垂・かがみ跳躍等6種目合格、各種目最低60点以上
体 格	身長161cm以上、体重49kg以上、胸囲78.5cm以上
視 力	裸眼視力0.1以上、矯正視力0.8以上



【基本降下課程】

基本降下課程は、空挺降下に必要な知識及び技能と空挺隊員に必要な『降下の心構え』などを養うための教育です。

地上訓練は、模擬扉訓練、着地訓練、懸吊着地訓練、操縦訓練を行った後、高さ11mからの跳出塔訓練、高さ83mからの降下塔訓練など、徐々に高度を上げ、段階的に技能を修得させ、同時に必要な体力・気力の向上を図ります。最終的に、実航空機から5回の降下を行い修了となります。



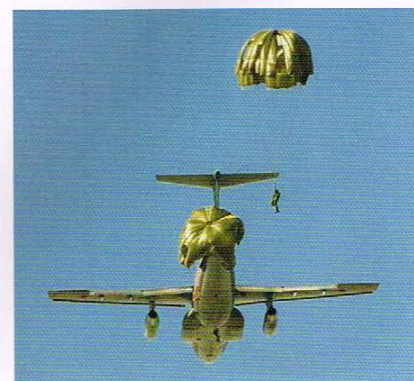
懸吊着地訓練（着地動作の体得）



跳出塔訓練（地上11m）



降下塔訓練（地上83m）



実航空機からの降下（地上約340m）



空挺団の各種教育

空挺隊員は、更なる精強化を目指して各種教育を受け、任務遂行に必要な知識と技能を修得します。降下長課程と空挺レンジャー課程で得られる能力は、空挺団の陸曹の必須能力です。



● 降下長課程 (幹部・陸曹、8週)



● 空挺レンジャー課程 (幹部10週、陸曹8週)



● 自由降下課程 (幹部・陸曹・陸士、6週)



● スクーバ課程 (海上自衛隊での教育、幹部・陸曹、7週)



● 降下長課程

降下の準備から降下及び物料梱包から投下までの指揮・監督ができる隊員を養成します。



● 空挺レンジャー課程

体力・精神力の限界に挑戦し、困難な状況・過酷な任務を遂行できる隊員を養成します。



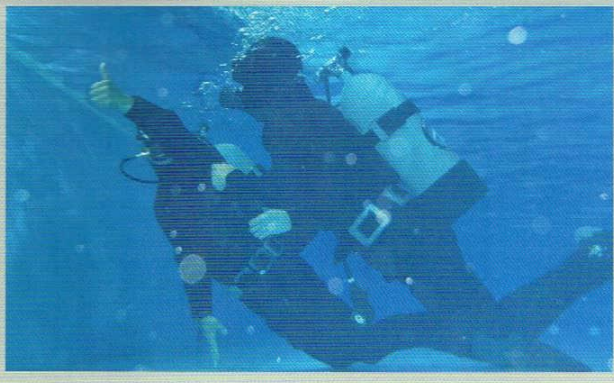
● 自由降下課程

隊員の任務や職務に基づき、高高度から隠密に降下できる隊員を養成します。



● スクーバ課程

隊員の任務や職務に基づき、海中から隠密に潜入できる隊員を養成します。



精強な隊員の育成

様々な活動による人材育成

空挺団では、精強な隊員の育成のために、武道、球技などを積極的に行い、空挺隊員に求められる体力・精神力の向上に取り組んでいます。

陸上 富士登山駅伝等に出場しています。



柔道 関東大会等に出場しています。



ラグビー 社会人リーグに出場しています。



銃剣道 国民体育大会等に出場しています。



拳法 国際大会等に出場しています。



剣道 官公庁大会等に出場しています。



バスケットボール 全自衛隊大会に出場しています。



行事等による地域とのふれあい

駐屯地の3大行事である1月の降下訓練始め、4月の創立記念、8月の夏祭りには、駐屯地を開放して、多くの地域の方々とふれあっています。また、防災訓練などを通じ、地域との連携強化に取り組んでいます。

1月 降下訓練始め



4月 創立記念



8月 夏まつり



その他 防災訓練等への参加



歴史ある駐屯地

習志野の歴史



明治天皇

近衛都督
西郷隆盛

明治天皇習志野之原演習行幸の図

左の絵画は、明治6年、明治天皇の御親臨のもと行われた陸軍の「近衛兵対抗演習」を伝えるものであります。当時、この一帯は大和田原と呼ばれておりましたが、この演習を指揮した篠原少将の見事な指揮振りに、陛下から「篠原に習いなさい」とのお言葉が発せられ、「習へ篠原(ならへしのはら)」、「習志野原」と命名されたと伝えられています。

習志野原に、日露戦争開戦2年前の明治34年、騎兵第1・第2旅団が練兵場に隣接して創設されました。その騎兵第1旅団長は、秋山好古大将です。駐屯地には、秋山大将が逝去される1ヶ月前に揮毫(きごう)され、絶筆となった「軍馬慰霊の碑」が現存しています。

その他に、硫黄島の戦いで守備隊長を勤めました栗林忠道大将、また戦車隊長を勤め第10回ロサンゼルスオリンピック「障害馬術」の部のゴールドメダリストであるバロン西こと、西竹一中佐もこの地にゆかりの深い方です。



「日本騎兵の父」
陸軍大将 秋山好古



秋山好古による揮毫
「軍馬慰霊の碑」



硫黄島での戦いを指揮した
陸軍大将 栗林忠道



ロス五輪金メダリスト
西中佐(バロン西)と愛馬ウラヌス



習志野原における新馬教習



空挺館（御馬見所）

「御馬見所」(ごばけんしょ)は、明治44年に東京目黒区駒場に所在した陸軍騎兵実施学校の学生終業式における臨幸のための建物として、また、高官並びに外国貴賓接客用の施設として使用されていました。大正5年、陸軍騎兵実施学校の習志野への移転に伴い、御馬見所も習志野に移設されました。現在では「空挺館」と名を改め、隊員の教育、伝統の継承などのため、空挺に関わる貴重な資料などを展示する資料館となっています。

空挺館（御馬見所）の外観



臨幸のための御立ち所



主な展示資料

2F 空挺の歴史

騎兵関連資料
パレンバン空挺作戦関連資料
義烈空挺隊関連資料
兵器関連資料

1F 空挺団の活動

各種展示資料



館内の様子



義烈空挺隊関連資料



1st Airborne Brigade, JGSDF

お問い合わせ先

陸上自衛隊 習志野駐屯地 広報班
〒274-8577 千葉県船橋市葉円台 3-20-1
Tel. 047-466-2141 (代表) 内線 206・207



<http://www.mod.go.jp/gsdf/1abnb/index.html>